

# 石川県リハビリテーションセンター 地域リハビリテーションの取組

(令和5年度 3月末実績)

1. 地域リハビリテーション推進事業
2. バリアフリー推進工房事業
3. 難病相談・支援センター事業
4. 高次脳機能障害相談・支援センター事業
5. 復興リハビリテーション支援事業

# 1. 地域リハビリテーション推進事業

## 地域リハビリテーション支援体制の整備

(平成12年3月28日老発第286号)

地域において障害のある者や高齢者が、閉じこもり状態となり、老化に伴う心身機能の低下とあわせて寝たきり状態となることを予防し、**住み慣れた地域において生涯にわたって生き生きと生活が送れるようリハビリテーションが適切かつ円滑に提供される体制整備を図る。**

地域リハビリテーションを推進するための中核として都道府県リハビリテーション支援センターを1カ所指定する。

※令和3年5月に国の「地域リハビリテーション推進のための指針」が改定

# 事業内容

- (1) 相談・支援**
- (2) 補装具装用訓練等支援事業**
- (3) 研修**
- (4) 啓発普及・情報提供**
- (5) 体制づくり**

# (1) 相談・支援

県内の保健・医療・福祉・教育・就労の関係機関から、リハビリテーションに関する技術的支援・協力依頼を受け、理学療法士、作業療法士、リハビリテーション工学技師、保健師などの専門スタッフが、障害のある方や高齢者の自立と社会参加を支援している。

## ① 相談・支援内容

### ● 個別ケースに対する相談・支援事業

**延べ件数 R5 : 1,342件**

**実人数 R5 : 284人**

- ①福祉用具の適合や住環境調整による自立支援
- ②日常生活動作(ADL:食事等)、生活関連動作(IADL:家事等)の自立を促す支援
- ③健康管理、機能低下や変形、生活不活発の予防に関する支援
- ④障害者の自動車運転に関する支援 等

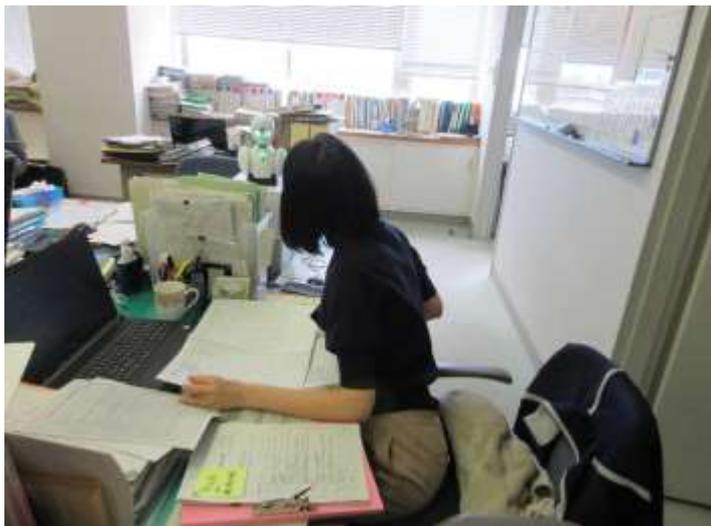
### ● 講師及び連絡会等への参加等 (事業支援)

**R5 : 59件**

- ①運動・作業等の指導
- ②施設環境の調整や福祉用具購入に関する相談
- ③会議への参加 等

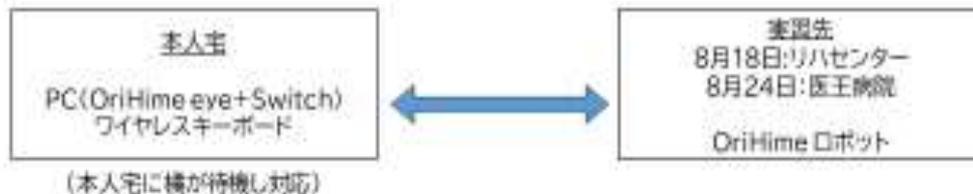
# ● 支援事例

## ■ 医療的ケア児への職業体験の支援



コミュニケーション支援機器を利用し、在宅での就労体験  
OriHimeロボットを利用し、事務所からエクセルデータ入力について指示し、ミニキーボードマウスを利用し、事務作業を行っている。

<職場実習の環境設定>



○双方のコミュニケーションは、OriHime ロボットを介して実施  
※事前の確認事項:直接声の利用、マイクの利用、PCによる声の利用

○実習の作業はPC (OriHime eye+Switch)を利用して、文字入力、データ入力を実施



自宅から金沢市の善隣館利用者に体験談を講義している

# ● 支援事例

- ケア付き住宅で過ごすALSの方の移動獲得支援



自分で自由に移動したいとの希望があり、足操作により電動車椅子での移動が獲得でき、散歩を楽しむことができています

# ● 支援事例

## ■ 就学支援とチェアスキー体験



地域の小学校に通う車椅子児童に対して、スキー遠足を楽しむためにチェアスキーの支援を行ったことがきっかけになり、県内のハンデスキー協会の方々とスキーを楽しんでいる

## (2) 補装具装用訓練等支援事業

機器等による代替手段を利用したコミュニケーション支援を強化するために、厚生労働省がR3～R5年度臨時で実施した補装具装用訓練等支援事業を活用し「重度障害者用意思伝達装置」を対象とした装用訓練等支援事業を実施

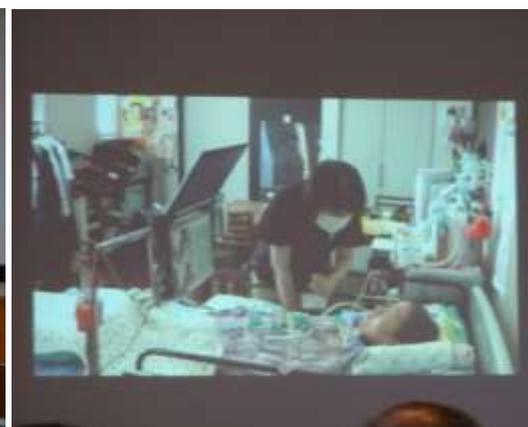
### ① 相談・支援

R5:支援人数 25人(のべ167件)

### ② 事業説明会

※ ハイブリッド:参集とオンラインでの実施

県内各地域で本事業の支援が充実するよう、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、相談支援事業所、居宅介護支援事業所、市町等の身近な支援者に機器等の代替え手段を利用したコミュニケーション支援に関する普及事業を実施(小松会場、金沢会場、七尾会場)



### ③ 意見交換会

県内各地域で本事業の支援が充実するよう、障害児や難病患者等への専門的な対応が可能な訪問看護ステーションで勤務するリハビリテーション専門職との意見交換会を実施。



### ④ 研修

- ・障害の状況にあわせた支援技術研修
- ・機器の使い方、設定に関する研修

3回開催  
3回開催

35人参加  
81人参加



# (3) 研 修

## ① リハビリテーション技術普及研修

- ・ 特別支援教育における取組とリハ専門職に期待すること 34名
- ・ とともにまなぼう見つけよう障害のある子どもたちの可能性 77名

## ② 福祉用具に関する研修

- ・ 職場環境改善研修  
1回 70名
- ・ 福祉用具活用研修（出前講座）  
5回 66名



## ③ 特別支援教育におけるリハビリテーション研修

- ・ 特別講演：教育現場で活かせる、リハ専門職の見立ての視点 303名
- ・ 選択講座：子供たちの姿勢や動きを見よう 58名
- ・ 福祉用具展示

会場：いしかわ特別支援学校

# (4) 啓発普及・情報提供

障害のある方や高齢者の自立した日常生活や社会参加を促進することの重要性について理解を深め、バリアフリー環境の大切さや自然に支え合うことができる社会の実現を目指すための啓発普及を行っている。

## ① バリアフリー体験住宅・設備

●住宅改修プランや福祉用具の試用検討を行うバリアフリー体験住宅「ほっとあんしんの家」



●生活動作に適した福祉用具を選択するための試用検討を行う福祉用具



## ② バリアフリー体験住宅「ほっとあんしんの家」利用状況

### ● 目的別利用件数

令和5年度

全体 278件

- ・ 一般見学 21件
- ・ 障害者の相談・支援 175件
- ・ 教育研修 45件
- ・ 研究・開発 37件



研修教育(コミュニケーション)



研修教育(移乗、車の運転)



# (5) 体制づくり

## ① リハ技術支援ネットワーク強化事業（県障害保健福祉課連携）

在宅で生活する障害のある人が社会参加を図るには、在宅での実践的リハビリテーション支援が重要となる。

各地域でこれらの活動を推進するには、医療・福祉・介護の連携が必要となるため、地域の支援者同士のネットワークづくり及び適切なリハビリテーション支援が提供できる相談支援体制の充実を目指す。

		H29年度	H30年度	H31(R1)年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
①在宅リハビリテーション検討会	内容	・各地域での訪問リハビリテーション事業の活動紹介(子どもからお年寄りまで様々な障害のある方への訪問リハ支援が提供できる事業所紹介)	・各地域でのリハ専門職が関与する、急性期回復期の病院、神経難病等専門病院、訪問リハ、福祉分野の機能訓練事業所の活動紹介	・長期に在宅生活を送る中での課題について、各専門職(医療、福祉、介護)が事例をとおして療養生活を継続するために何ができるか等、多職種および同職種で検討	・リハビリテーションにおける地域課題について事例をとおしてリハビリテーション専門職(医療、在宅)が検討することで課題を共有し対応策を考える	・在宅医療・介護に関わる多職種で在宅リハビリテーションの効果と課題を共有し、「日常の療養支援」における連携のあり方を考える	①在宅生活を支えるリハビリテーション技術支援の事例を通して、訪問看護事業所と課題を共有検討した ②訪問看護事業所への社会資源調査(一次調査)③能登北部圏域での在宅リハビリテーションについての現状と課題を検討した	在宅で暮らす障害者、高齢者、医療的ケア児等へのリハビリテーションの提供について、各地域での連携の現状と課題を共有し、体制づくりを目指す。	
	参加人数(地域別)	南加賀	41名	29名	25名	第1回・頸髄損傷者への支援:24名 第2回・成人脳性麻痺者への支援:18名	第1回・講義と演習(ALS):25名 第2回・事例報告と演習(筋ジストロフィ):18名	①訪問看護ステーション連絡会(金沢第二地区29、能登地区12) ②県内訪問看護ステーション134事業所 ③医療機関のリハ職8施設	①訪問看護事業所・リハ専門職との検討会議 9月14日14事業所16名 ・管理者との勉強会 10月13日(予定) ②回復期リハ病棟リハ専門職との検討会議(予定)
		石川中央西	44名	36名	17名				
		石川中央東	39名	47名	33名				
		能登中部	22名	34名	23名				
		能登北部	21名	17名	18名				
②ネットワーク事業 成果普及報告会	80名	57名	66名	42名	43名	41名	3月予定		

## ②リハビリテーション専門職活用支援事業（県長寿社会課連携）

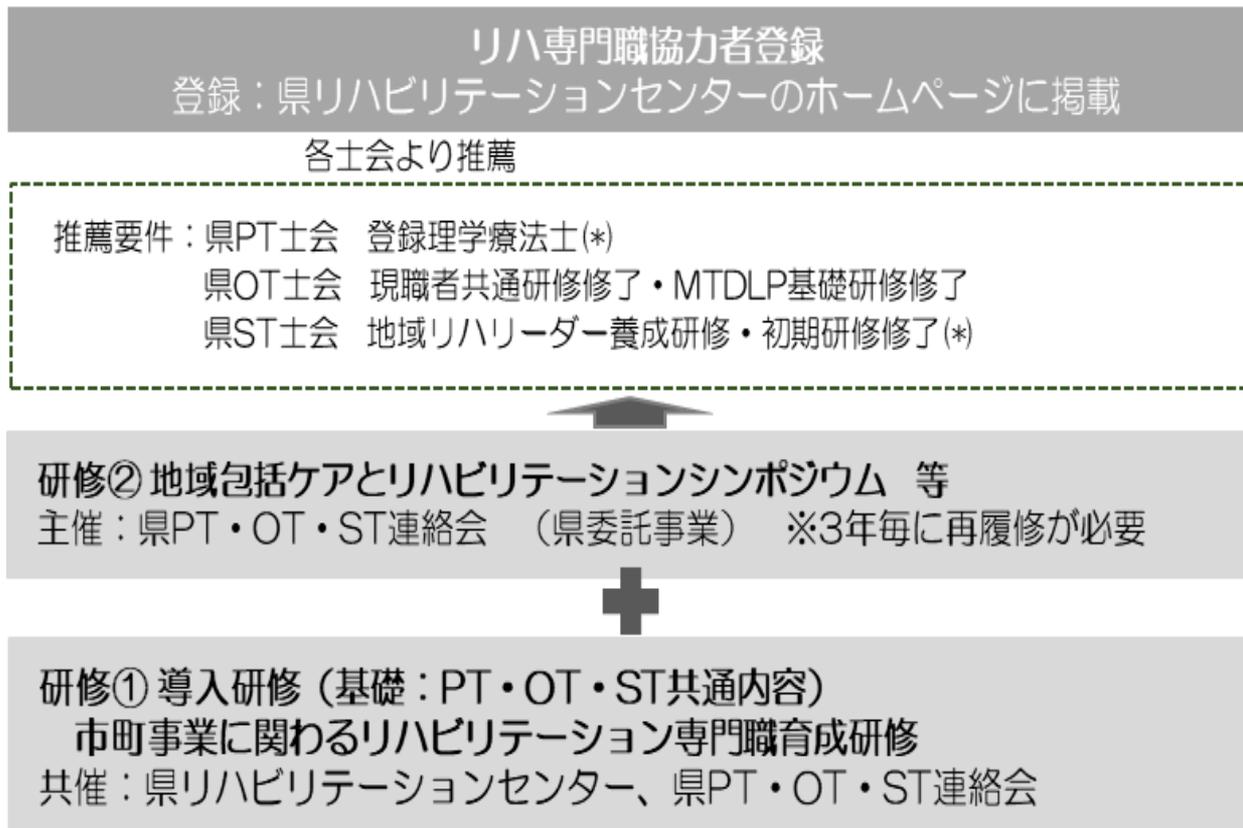
平成27年度から各市町の事業に関与できるリハ専門職の人材育成、各地域におけるリハ連絡会の体制づくり、市町や地域包括支援センターの方々に対する地域リハビリテーションの啓発普及を目的に下記事業に取り組む。

### リハビリテーション専門職活用支援事業の活動実績

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
リハ専門職の人材育成	研修① 導入研修(基礎:PT・OT・ST共通内容) 市町事業にかかわるリハ専門職育成研修								
参加人数	128名	138名	111名	113名	109名	51名	64名	34名	36名
各地域の連絡会構築	研修② 地域包括ケアとリハビリテーションシンポジウム等								
開催地 (参加人数)	加賀市 (138名)	七尾市 (147名)	金沢市 (136名)	羽咋市 (83名)	実践報告会 (199名)	普及研修 (101名)	実践報告・情報交流会 (60名)	実践報告会 (69名)	震災のため中止
市町への啓発普及	パンフレット 作成 (3,000部)	パンフレット 増刷 (3,000部)			実践報告集作成 (500部)	新しい生活様式に対応 した介護予防の 取り組み紹介 6回(277名)	パンフレット改訂 (第2版) (3,000部)	活動紹介作成 (100部)	
各地域の連絡会 との情報共有			活動意見 交流会		実践報告会		市町へのアンケート (リハ専門職の状況調査)		
リハ専門職の 育成体制の構築				・育成体制の 明確化 (下図参照) ・協力者名簿 の作成	・協力者名簿更新の HP掲載 ・県から各市町に 協力者名簿の周知	・協力者名簿更新の HP掲載 ・県から各市町に 協力者名簿の周知	・協力者名簿更新の HP掲載 ・県から各市町に 協力者名簿の周知	・協力者名簿更新の HP掲載 ・県から各市町に 協力者名簿の周知	・市町事業に関わる リハ専門職実態調査 ・協力者名簿更新の HP掲載 ・県から各市町に 協力者名簿の周知

# ●市町事業に関わるリハ専門職育成の体制

各職能団体の研修ならびに県が実施する研修①②の修了者を各職能団体から推薦し、同意が得られたリハ専門職を市町事業に関与できる協力者として、県リハビリテーションセンターのホームページに掲載し市町や地域包括支援センターへ紹介。



市町事業に関わるリハ専門職の協力者数 R5年7月末現在

職種	実人数	延べ人数
理学療法士	30	87
作業療法士	47	78
言語聴覚士	13	41

\* PT士会: 登録理学療法士とは、最短で前期研修3年・後期研修2年で履修可  
 \* ST士会: 地域リハリーダー養成研修・初期研修の受講要件は、臨床経験5年以上もしくはST士会会員研修プログラムベーシックコースの必須項目修了

## 2. バリアフリー推進工房事業

平成8年4月 リハセンター、工業試験場、  
土木部の医工連携組織として、リハビリテー  
ションセンター内に設置

# 事業内容

**(1) 相談・支援**

**(2) 研究開発**

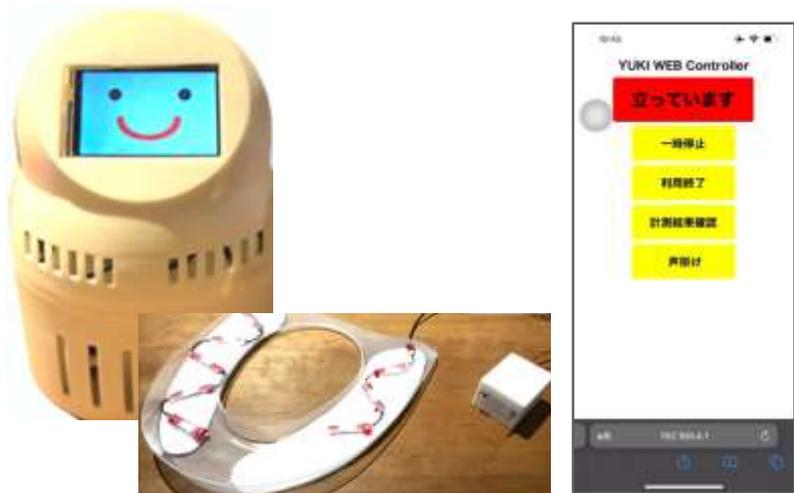
# (1) 相談・支援

## ● トイレでの声かけ・見守り機能を持つ介護ロボットの開発支援

施設利用者の見守り・声かけ時間を軽減するために、介護職員が介護ロボット操作を簡単に設定して置くだけの『ゆきちゃん』を開発（県作業療法士会、金沢工業大学）

### 【実用化に向けた機能改善 （金沢工業大学）】

トイレバージョン:対象者の立ち上りを捉えて声かけし、職員が来るのを待つことができる



離れた介護職員に通知するための改善  
・立ち上りの状況を手持ちのスマホに通知

### 【製品化に向けた企業マッチング （コマニー株式会社）】

製品化に向けた県内企業への技術移転



開発検討案

製品化への技術改善  
・様々なトイレ環境に対応する側壁設置  
・便器清掃をしやすくするセンサの無線化



製品化に向けて、企業とOT会、金沢工大、センターとで打合せや試作機を用いた試用検討を行う

# ● 県有施設のユニバーサルデザイン支援(土木部との連携)

木場潟公園東園地

移動機器の検討



兼六園・金沢城公園

BFマップ作製のための検討



## (2) 研究開発

日々の個別支援を通して福祉用具等の開発ニーズを整理することで、生活に必要な福祉用具の自主研究を行っている。

### ●課題:重度の障害がある電動車椅子利用者のPC操作



筋ジストロフィー事例



筋ジストロフィー事例



脳性麻痺事例

### 【課題】

- ・上肢の到達能力に制限があり、電動車椅子の操作レバーからPCマウスに持ち替えることが難しい(自由に移動やPC操作の切り替えができない)

電動操作部の小型化や車椅子  
テーブルを特注対応するが、  
対応が不十分



## 電動操作とPC操作を選択・共用できる操作システムの研究開発

【概念図】

【原理試作】⇒安全性確保⇒【評価モデル試作】



・安全性を確保して作動することを確認



手指機能に応じた切替・決定ボタン等の研究へ

### 3. 難病相談・支援センター事業

◆平成18年5月

石川県リハビリテーションセンター内に設置

地域で生活する難病患者や家族等の日常生活における相談に応じ、また、患者の交流支援、研修会、就労支援などを行う。

平成27年度から**小児慢性特定疾病児童等**の相談支援も開始。

# 事業内容

- (1) 相談・支援**
- (2) 医療講演会・研修会 等**
- (3) 患者・家族交流支援**
- (4) 支援関係者研修**
- (5) 患者会支援**
- (6) 小児慢性特定疾病児童等自立支援事業**
- (7) 啓発普及・情報提供**

# (1) 相談・支援

相談・支援件数 : 806件(198人)

保健師、OT、PTによる個別相談

< 電話・来所相談(予約制)・訪問・メール >

月曜日～金曜日	8 : 30～17 : 15
土曜日 (電話相談のみ)	8 : 30～12 : 30

専門医相談 (予約制) \* 日時は随時調整

脳神経内科医、整形外科医、免疫内科医

就労個別相談 (予約制) 毎月第3木曜日 13:30～15:30

金沢公共職業安定所 難病患者就職サポーター

## (2) 医療講演会・研修会等

### ① 難病医療講演会

対象：地域に患者会がなく、医療講演会等の開催機会が少ない疾患の患者・家族

目的：疾患に関する最新の情報や日常生活の留意点等について、学ぶ機会とする



### ② セルフマネジメント研修

目的：病気が日常生活に及ぼす影響を最小限にし、人生をよりよいものにするための自己管理能力を身につける

### ③ 災害に関する研修

いしかわ医療的ケア児支援センターと共催

令和5年度 難病患者・医療的ケア児等災害対策研修会

# (3) 患者・家族交流支援

① **難病カフェ** 疾患を限定しない交流の場 1 1回開催 参加者84人

開催日：毎月第2火曜日 13:00～16:00（時間内の出入り自由）

場 所：リハビリテーションセンター 4階交流室・研修室

内 容：話し合い、学習会、手工芸等

参加費：無料 \* 初回参加時のみ事前予約が必要



災害に役立つ料理教室



書道教室



ハーバリウム教室

## ② パソコン・タブレット教室

日 時：隔週水曜日 13:30～15:30（時間内の出入り自由）  
対 象：難病等により身体に障害がある方  
内 容：パソコン、タブレット、スマートフォン操作に  
関することを通して交流を図る

\* 初回参加時のみ事前予約が必要

24回開催 参加者100人



# (4) 支援関係者研修

① 相談支援担当者難病研修

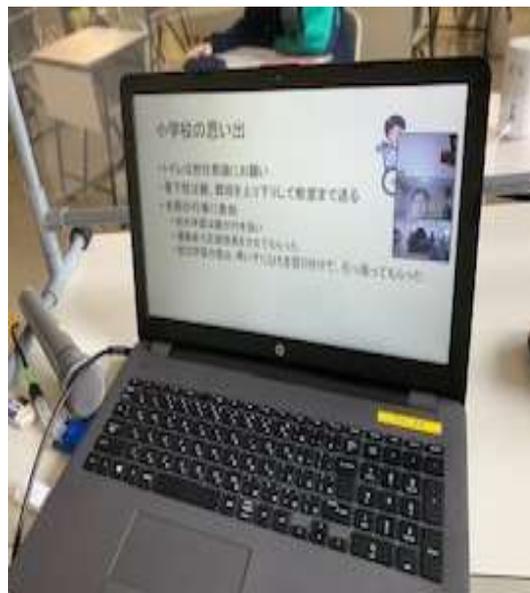
② 難病ホームヘルパー養成研修

(①と②同時開催：能登半島地震のため中止)

③ 語り部事業

対象：看護師や介護福祉士等を目指す保健・医療・福祉系の学生  
内容：難病患者・家族による体験談、患者会の活動紹介

5回開催：受講生92名



# (5) 患者会支援

## ① 難病患者団体等連絡会

対象団体：22団体

10団体出席

日時	内容	参加者
7月8日(金) 13:30~16:00	意見交換 ①令和5年度 難病相談・支援センター事業について ②令和5年度 各患者会活動について ③患者団体からの意見・課題を受けての対応について ④障害者ピアサポート研修について ⑤災害対策について	来場7 オンライン3

## ② 患者会等の活動支援

- ・ 患者会主催の講演会・交流会等への協力・支援
- ・ 患者会活動の周知に協力 等



# (6) 小児慢性特定疾病児童等自立支援事業

## ① 専門医等相談会

対象：小児慢性特定疾病児童の家族及び支援者

目的：家族が疾病を正しく理解することにより、  
子育てや療養生活の不安の軽減を図る

内容：

- ・ 糖尿病の子ども療養生活について～学校生活を中心に～
- ・ 慢性腎疾患をもつ子ども療養生活について
- ・ 小児慢性疾患をもつきょうだい・家族の心理的支援について
- ・ 小児慢性特定疾病児童等保護者交流会

4回開催： 参加者66名



# (7) 啓発普及・情報提供

① センターニュースの発行（年2回）

② ホームページの運営

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/nanbyou>

[ホーム](#) > [医療・福祉・子育て](#) > [健康](#) > [疾病・難病対策](#) > 石川県難病相談・支援センター

更新日：2021年12月1日

## 石川県難病相談・支援センター

石川県難病相談・支援センターでは、**難病のある方**や**小児慢性特定疾病のある児童**など、長期にわたって療養されている方とそのご家族、支援者を対象に支援を行っています。

- [難病相談・支援センターの概要（リンク）](#)
- [難病相談・支援センターの周辺地図と交通案内（リンク）](#)



## 4. 高次脳機能障害相談・支援センター事業

### ◆平成19年4月

石川県リハビリテーションセンター内に  
高次脳機能障害支援拠点機関として設置

高次脳機能障害のある方や家族の相談に応じ、  
地域で安心して暮らせるように、医療・福祉・  
就労・教育等の関係機関と連携し支援を行う。

# 事業内容

- (1) 相談・支援**
- (2) 教室活動（当事者向け、家族向け）**
- (3) 研修会・出前講座**
- (4) 支援関係者連絡会**
- (5) 普及啓発・情報提供**

# (1) 相談・支援

相談・支援件数 : 1,228件(99人)



職場復帰に向けての作業理解や集中力に関する職業前評価



職場訪問による業務内容の確認

## (2) 教室活動

### ① 生活支援教室 48回開催 利用者数：実12名（延べ220人）

目的：自身の障害について理解を深め、家庭生活の自立や社会参加に向けて必要な代替手段を獲得する

対象者：高次脳機能障害により日常生活や社会生活に支障があり、一定期間、グループに参加することで効果が見込まれる方

内容：教室の目的確認、学習、認知課題への取り組み、話し合い等

日時：毎週水曜日9時半～12時  
(1クール：6ヶ月)

スタッフ：作業療法士、保健師等



## ② 本人・家族のための講座

本人・家族が高次脳機能障害を理解し、適切に対応することで生活の質を高める。また参加者同士の交流の場とする。

日 時	テ ー マ	講 師
6月30日（金） 13:30～15:30	高次脳機能障害の理解と対応について	リハビリテーションセンター 作業療法士
9月5日（火） 13:30～15:30	利用できる社会資源について	リハビリテーションセンター 保健師
12月4日（月） 13:30～15:30	就労について	石川障害者職業センター 障害者職業カウンセラー
3月7日（木） 13:30～15:30	家族会の活動について	高次脳機能障害患者と家族の 会つばさ 会員

\* 講師の講話、患者と家族の会「つばさ」の会員を  
助言者として座談会

参加者 第1回：23名 第2回：23名  
※つばさ会員含む 第3回：17名 第4回：13名



本人・家族のための講座の様子

# (3) 研修会・出前講座

## ① 研修会

支援者が高次脳機能障害の支援に必要な知識と技術を習得し、地域生活を見据えた支援が行えるようになることを目的とする。

### ア) 支援担当者研修 (オンライン開催)

2回開催 72名参加



### イ) 専門職研修 (オンライン開催)

能登半島地震のため中止

## ② 講演会

広く一般県民に対して、高次脳機能障害への理解を深め、知識の普及を図る。集合形式で開催し、後日オンデマンド配信した。



### <高次脳機能障害リハビリテーション講習会>

※主催：石川県高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会

月 日	開催 令和5年12月3日（日）14:00～16:30 オンデマンド配信期間 令和5年12月25日（月）～令和6年1月19日（金）
内 容	第1部 講演 「脳損傷によって生じる感情と行動の障害 ～原因を理解して対応を考える～」 第2部 体験談
講 師	京都光華女子大学 健康科学部 医療福祉学科 教授（精神科医） 上田 敬太 氏
参 加	12月 3日参加者：90名 視聴数：136回

## **(4) 支援関係者連絡会**

### **① 県内支援関係者との連絡会**

令和5年7月21日、11月13日の支援担当者研修会に併せてオンラインで開催

- ・ 支援担当者との連絡会  
当センターの紹介、高次脳機能障害者への対応方法、支援事例の紹介、意見交換

### **② 北陸三県の高次脳機能障害相談支援センターとの連絡会**

8月5日(土) 福井県高次脳機能障害相談支援センター主催で開催

各県での取組みについて情報交換、課題について検討

# (5) 普及啓発・情報提供

① センターニュースの発行（年2回）

② ホームページの運営

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/koujinou>

③ リーフレットによる普及・啓発

**石川県 高次脳機能障害 相談・支援センター**

脳 の 病 気 や 事 故 の あ と 人 が 変 わ っ て し ま っ た と お 悩 み の 方

それは「高次脳機能障害」かもしれません。

高次脳機能障害のある方々に家族の皆さまが、当館で安心して暮らすためのお手伝いをいたします。

**高次脳機能障害とは？**

病気やケガなどにより脳が障害されることで、記憶や注意など認知機能の障害によって日常生活や社会生活に困難をきたしている状態のことを高次脳機能障害と言います。

**原因は？**

- 交通事故や転倒などによる脳損傷
- 脳炎等、脳出血などの脳血管障害
- 脳腫瘍、脳寄生虫、脳梗塞、脳出血、脳出血など

**症状は？**

【記憶の障害】

- 一日の手帳を書き忘れない
- 似ている言葉も覚えない
- 自分か他人かを区別できない

【注意の障害】

- 気が散りやすい
- 気が散らない
- 物事に集中できない

【実行機能の障害】

- 物事の段取りがつかれない
- 物事を計画を立てて進められない
- 急いで作業に取り組めない

【社会的行動の障害】

- 感情コントロールができない
- 人間関係を築くのが苦手
- やる気がない（意欲低下）
- こだわりが強い（固執性）

**相談方法は？**

本人が障害を尋ねるための代替の方法を身に付けて、スタッフが理解して障害を整理したり、対応方法を工夫してサポートすることで、出来るようになるようになります。

**相談支援の流れ**

電話相談 → 来館相談（予約あり） → 訪問相談（予約あり）

電話相談：お電話でのご相談ください。これまでに経過や現在の困りごとの事をお知らせください。

来館相談：相談内容の確認を行い、今後の支援について相談します。

訪問相談：ご自宅や職場、学校等の施設に訪問して相談します。

**各種支援**

- 在宅支援：自宅での暮らしを支援します。
- 就労支援：就労の準備や実践を支援します。
- 職業支援：就職先や転職先を支援します。
- 教育活動：習得後の交流や代替手段の開発を支援します。
- 施設支援：施設での暮らしを支援します。

**フォローアップ**

地域で安心して暮らすことができるように、関係機関と連携して支援を継続します。

**相談時間**

- 平日 9:00～17:15
- 土曜日 9:30～12:30
- 休日 日中・夜間・祝祭日、年末年始

**相談スタッフ**

職員、医師、心理士、作業療法士等

## 令和6年能登半島地震

# 5. 復興リハビリテーション支援事業

# JRAT(日本災害リハビリ支援協会)の活動

## 1. 履歴(概要)

- 1.1 発災
- 1.2 石川県庁にて情報収集開始
- 1.3 石川JRAT災害対策本部設置(金沢医科大学)
- 1.5 RRT派遣活動開始
- 1.7 七尾本部(公立能登総合病院)設置
- 1.8 石川県-石川JRAT 協定書締結  
いしかわ総合スポーツセンター(1.5次避難所)・  
穴水町避難所にて活動開始
- 1.9 七尾市避難所にて活動開始
- 1.13 石川本部移転(石川県リハビリテーションセンター)
- 1.14 志賀町避難所にて活動開始  
地域JRAT活動開始
- 1.17 能登町避難所にて活動開始
- 1.18 七尾本部移転(石川県能登中部保健福祉センター)  
中能登町避難所にて活動開始
- 1.21 珠洲市にて活動開始
- 1.22 小松市(1.5次避難所)にて活動開始
- 1.25 輪島市避難所にて活動開始
- 2.13 金沢市(2次避難所)にて活動開始
- 3.8 七尾本部機能を石川本部に統合
- 3.19 東京本部機能を石川本部に統合
- 3.26 輪島市でのJRAT活動終了予定)
- 3.31 県庁本部機能を石川本部に統合  
能登地域でのJRAT活動停止
- 4.30 JRAT活動停止

<4.14地域JRAT週末報告会資料>より



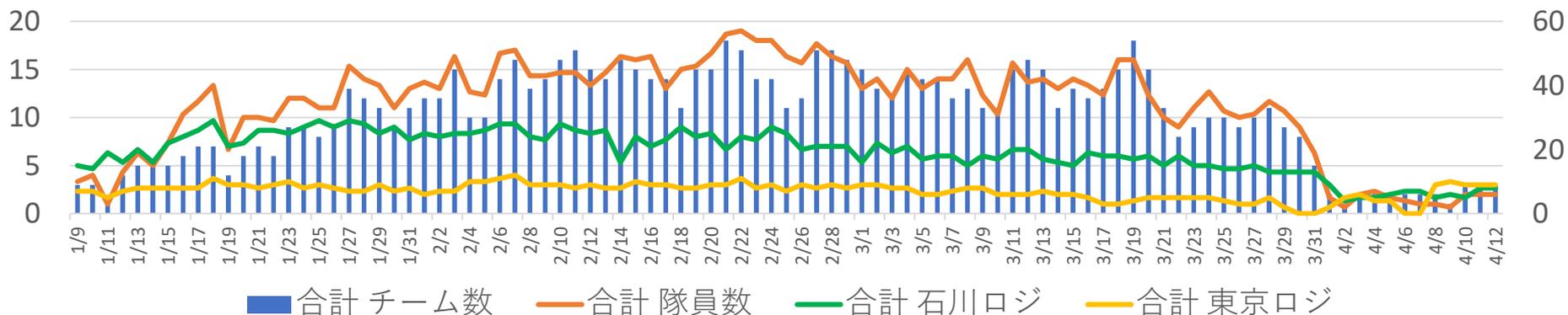
## 2. 活動実績

<4.14 地域JRAT週末報告会資料>より

\*4.12 (速報値) \*延べ数 (石川県含む)

	石川本部ロジ人員数	現地派遣人員数	東京本部ロジ人員数	合計
1月 (1.7~1.31)	582人	657人	208人	1,447人
2月 (2.1~2.29)	695人	1,355人	253人	2,303人
3月 (3.1~3.31)	517人	1,156人	164人	1,837人
4月 (4.1~4.12)	75人	55人	67人	197人
合計	1,869人	3,223人	692人	5,784人

	派遣チーム数
1月	162
2月	414
3月	373
4月	25
合計	974



### 3. 避難所支援別活動実績

<4.14 地域JRAT週末報告会資料>より

	支援回数		スポセン	七尾市	志賀町	穴水町	能登町	輪島市	珠洲市
1月 (1.7~1.31)	3 4 5	派遣 チーム数	77	23	14	12	12	12	12
2月 (2.1~2.29)	7 9 9		153	8	31	5	8	96	93
3月 (3.1~3.31)	6 3 9		137	23	42	3	0	77	104
4月 (4.1~4.12)	4 0		22	1	0	0	0	0	2
合計	1,8 2 3回		389	54	87	20	20	185	211

\* 延べ数

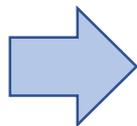
	七尾市	志賀町	穴水町	能登町	輪島市	珠洲市
避難所総数 (累積)	40か所	30か所	40か所	45か所	131か所	67か所
訪問避難所数	26か所 (65%)	30か所 (100%)	36か所 (88%)	25か所 (56%)	93か所 (70%)	57か所 (85%)
支援回数	198回	230回	82回	57回	393回	503回

いしかわ総合スポーツセンター \* 入所者数4.9現在

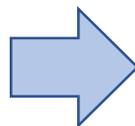
133人 (メイン86、サブ47)

# 避難所での生活環境の改善や工夫

## 1. 避難所支援 (トイレに立ち座り、姿勢保持のための手すり設置)



仮設の和式トイレに手すり設置



## 2. 避難所支援（手すり等での環境調整）



自衛隊風呂の浴槽出入りのために手すり設置



避難所の階段に移動のために手すり設置



起き上がり立ち上がりのために手すり設置

### 3. 1.5次避難所支援（環境調整）



マットが動かないように滑り止めシート、床の滑りはカーペット敷いて対応



靴の脱着、トイレへの誘導等のため設置型手すりで対応

## 4. 1. 5次避難所支援 (車椅子の調整、寝食分離等の調整)



震災で車椅子の足台が破損したため、本人の車椅子の修理対応の準備と、できるだけ応急的に足台の工夫対応



寝食分離を目指して、食事やレクリエーション空間を調整

## 避難所等で使用した福祉用具（R6年1月～5月末日）

	1.5次 避難所	珠洲市	輪島市	穴水町	計
車椅子	59	1			60
歩行車	62	2			64
歩行器	6	1			7
杖	17	3			20
置き型手すり	79	18		3	100
置き型連結手すり	6	1			7
車椅子用クッション	2	1	10		13
ポジショニングクッション			10		10
電動ベッド	5				5
マットレス	11				11
ベッド用サイドレール	10				10
ベッド用L字柵	5				5
シャワーチェア	1	4	1		6
浴槽内台			1		1
スロープ		2			2
移動用リフト	1				1
吊り具	1				1
呼び鈴	5				5
伸縮靴べら	1				1
計	271	33	22	3	329

# 1.5次避難所でのアクティビティセンターの開設

## 1. 目的と内容

避難所内に活動や参加の機会を設けることにより、避難者の活動の賦活を図り、心身の機能低下を防止して次の生活へつながるように取り組むことが必要と考えられる。そのため、避難者それぞれの能力や趣味嗜好の違いにより活動を選択できるように、2種類の活動の場を設ける。

### (1) 身体活動(運動プログラム)を実施

場所: スポーツセンター3階 グランドデッキ

時間: 午前と午後の2回(10:30～、15:00～)

1回につき、メインアリーナからの移動も含めて1時間程度

内容: 体操、ウォーキング、グランドゴルフや風船バレー、ボッチャなどのレクリエーション

### (2) 手工芸やゲームなど机上活動(脳活プログラム)を実施

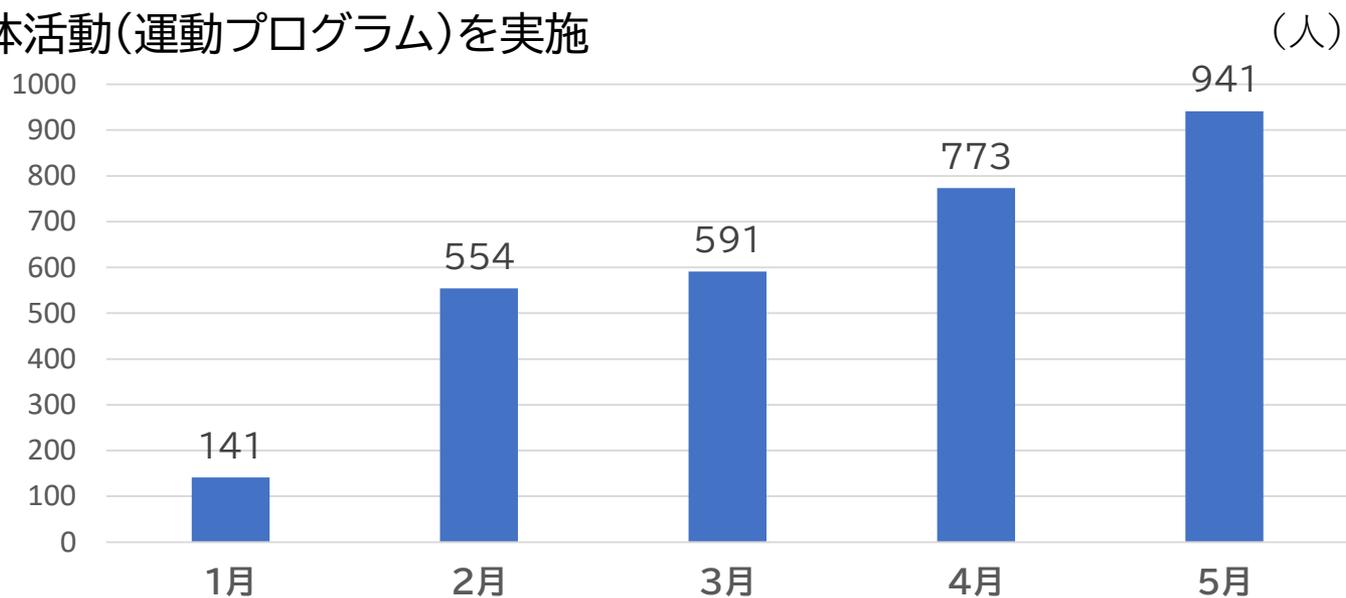
場所: メインアリーナ内で机と椅子があるスペース

時間: 10:00～16:00 (開設時間内で好きな時間に利用を行う)

内容: 写経、折り紙、毛糸手芸、大人の塗り絵、将棋や囲碁など

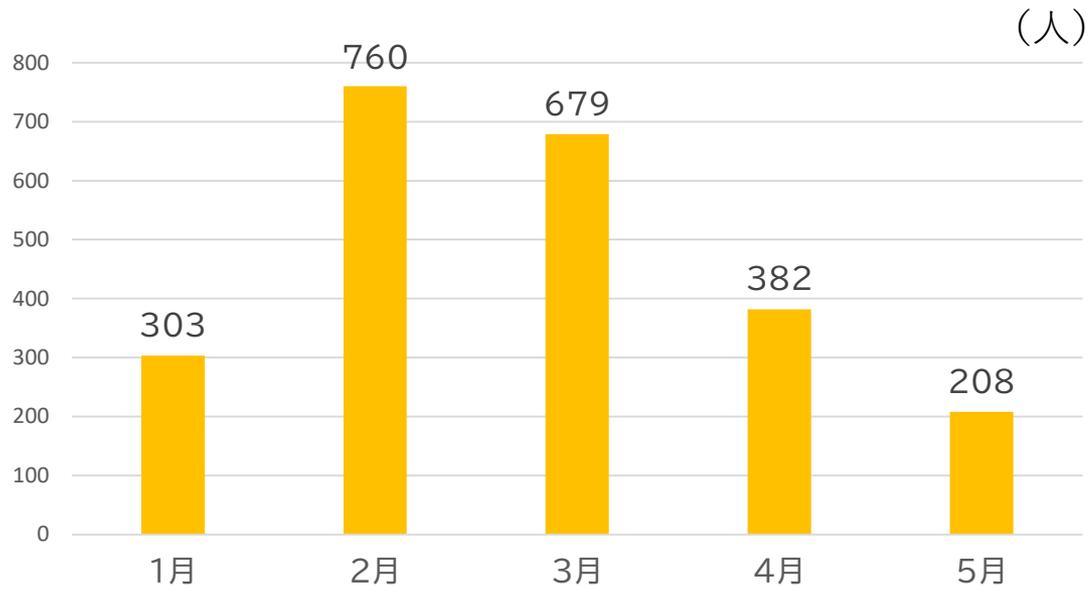
## 2. 活動実績

### (1) 身体活動(運動プログラム)を実施



身体活動(運動プログラム)を午前と午後の1日2回実施

## (2) 手工芸やゲームなど机上活動(脳活プログラム)を実施



手工芸やゲームなど机上活動(脳活プログラム)は自由に利用できる環境整備を行い実施

# 復興リハビリテーションの活動

## 石川県創造的復興プランについて

能登が示す、ふるさとの未来  
Noto, the future of country

令和6年6月

石川県

# 石川県創造的復興プラン

本プランを創造的復興の実現に向けた羅針盤と位置づけ、県の成長戦略に基づく施策の推進を県政運営の基本としつつ、地震からの復興に関する事項は本プランに基づき推進する

## 大施策 5 被災者・被災地への支援の充実

### 中施策 7 避難者や被災者の健康管理

#### 小施策 3 被災者へのリハビリテーション支援

##### 【取組】被災者の生活不活発病予防や介護予防への支援

被災者の生活不活発病予防や介護予防のため、仮設住宅に入居する高齢者・障害者等に対し、リハビリテーション専門職の派遣や相談対応等を実施します。(健康福祉部)

取組	短期 (~R7末)		中期 (~R10末)			長期 (~R14末)				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
被災者の生活不活発病予防や介護予防への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仮設住宅等へのリハビリテーション専門職派遣</li> <li>● 被災者の相談支援</li> </ul>		市町の事業化支援							
	市町の人材育成、研修会の実施									

# 市町や専門機関と連携した被災者への各種支援



被災者の所在

発災後～これまで  
避難所がメイン



1箇所に複数人で過ごす

災害派遣チームが中心となり対応

今後

自宅帰還、仮設住宅への入居が本格化



自宅・仮設住宅で個人で過ごす

周囲の目が届きにくくなることによる被災者の孤立、  
生活環境の変化による心身の不調が懸念

見守り・状況把握

仮設住宅入居者、  
在宅の高齢者・障害者  
等への個別訪問

各市町や県において、  
社会福祉協議会、  
専門ボランティア団体  
等により実施

個別訪問の  
情報集約

被災者  
データベース  
を活用

要支援者等を把握

必要な支援につなぐ

個々の被災者に必要な支援をきめ細かく提供

生活環境変化に  
伴うメンタル不調

被災者のこころのケア

精神科医・保健師等による訪問相談等

運動量低下による  
要介護化

介護予防・悪化防止

リハビリ専門職による集会所等での介護予防活動等

栄養バランスの乱れ  
による健康状態悪化

栄養・食生活支援等

栄養士等による栄養指導や食生活改善サポート

仮設住宅等における通所・在宅サービスの拠点整備を支援

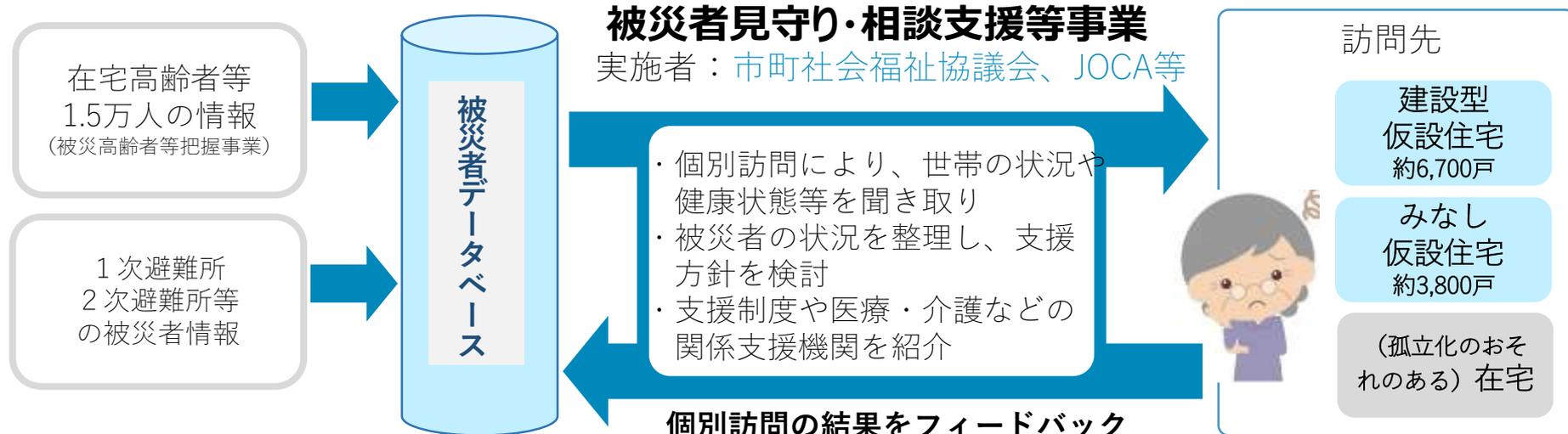
食事・入浴等を提供するデイサービスや総合相談支援を包括的に提供

⇒要支援者以外にも利用できるようにすることでコミュニティづくりの拠点に

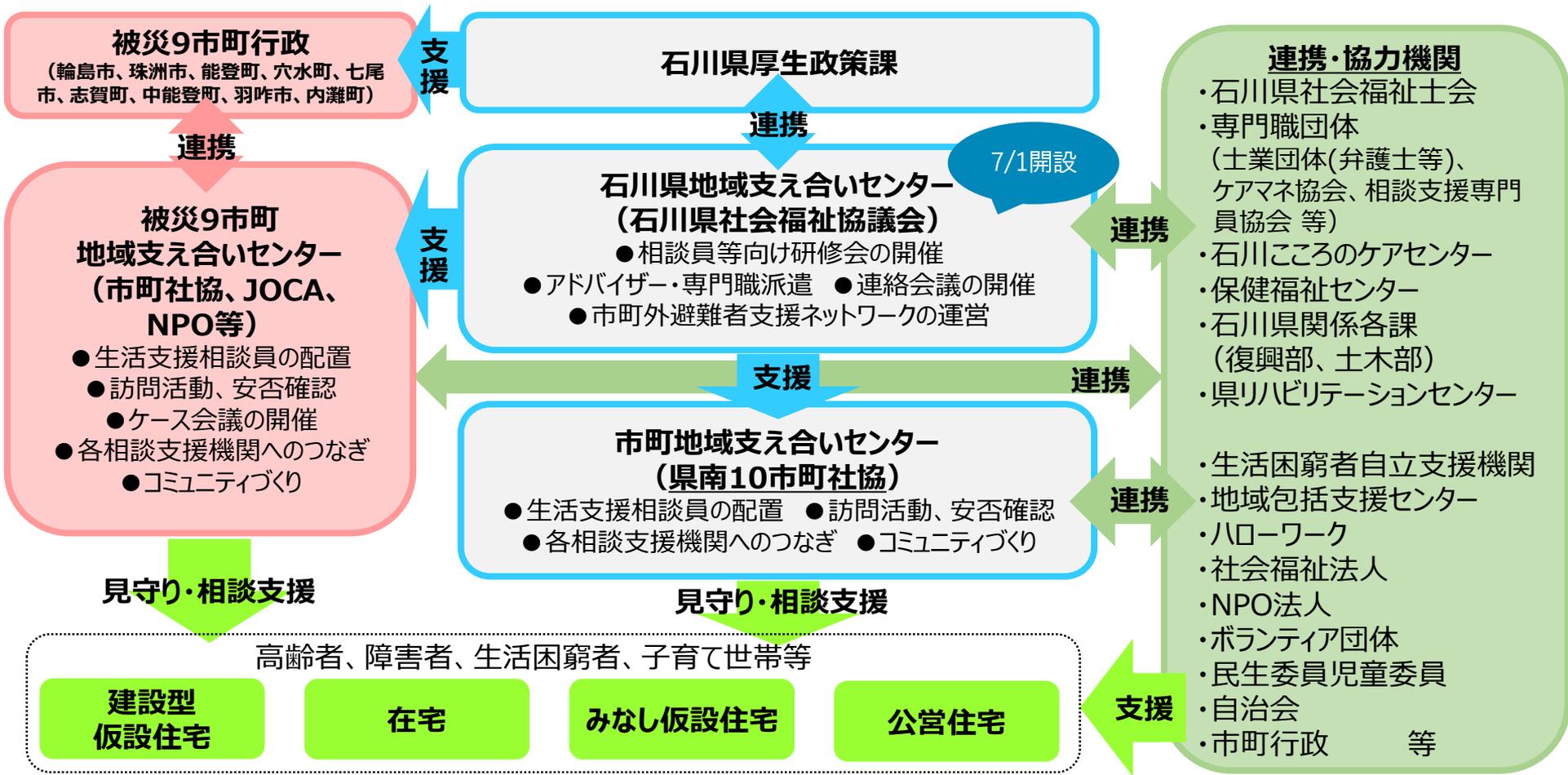
# 被災高齢者等の見守りについて

- 仮設住宅や自宅への生活に移行に伴い被災者の孤立が懸念される  
⇒ 6月補正「被災者見守り・相談支援等事業」により、見守り体制を強化
- 見守りには被災者データベースの情報も活用
- 県も7/1に県社協内に支援センターを設立し、研修等により市町を支援

## 第2段階（自宅帰還、仮設住宅への入居が本格化）



# 石川県における被災者見守り・相談支援等事業 実施体制



# 復興リハビリテーション支援事業(実施状況)

## 事業概要

被災高齢者等の生活不活発病や要介護化を予防するため、**県リハビリテーションセンターが中核機関となって、地域の医療機関に所属するリハ専門職を派遣し、仮設住宅等での相談対応や介護予防活動に取り組む。**

4月 JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会) 撤退

6月～ 訪問相談開始(6市町に常駐の担当リハ職を配置)

週1回(毎週水曜日)連絡会議を実施  
(6市町担当リハ職、リハセン、長寿社会課)

## 【訪問相談実績】

※主に仮設住宅での住環境の相談対応

市町	延べ活動日数			
	6月	7月	8月	9月
輪島市	26日	33日	35日	38日
珠洲市	11日	17日	15日	21日
穴水町	10日	11日	14日	12日
能登町	10日	10日	18日	20日
七尾市	1日	2日	4日	4日
志賀町	6日	10日	7日	8日



仮設住宅向けチラシを配布



集会所で教室を展開



トイレに補装具を設置



担当リハ職ビブス



浴室に手すりを設置

# 復興リハビリテーション支援事業

仮設住宅・在宅生活の要支援者・障害者等

支援

市町（主に能登6市町を対象に医療機関と連携した活動）

珠州市  
(市PT:1)

輪島市  
(市OT:1)

穴水町

能登町

志賀町  
(市PT:1)

七尾市

情報共有

支援

珠州市担当  
珠洲病院  
リハ職

輪島市担当  
輪島病院  
リハ職

穴水町担当  
穴水病院  
リハ職

能登町担当  
非常勤  
リハ職

志賀町担当  
富来病院  
リハ職

七尾市担当  
能登病院  
リハ職

市町連絡調整・ニーズの把握、地域関係団体調整、技術支援等

## 事業内容

- ① 仮設住宅における環境の確認・改修支援
- ② 福祉用具の相談・助言
- ③ 集会場等での運動・認知の維持向上のための介護予防活動
- ④ 地域ケア会議や行政会議への参加協力・助言
- ⑤ 研修等を通じた人材育成・自主グループの育成

市町の要望に応じて派遣支援  
(羽咋市、中能登町、内灘町の仮設住宅団地など)

派遣  
支援

情報共有

派遣  
支援

仮設住宅・在宅生活者・2次避難者の自立支援等

医師会・リハ  
専門職団体等

相談

情報  
共有

県リハビリテーションセンター（リハ専門職9名、リハ工学技師1、保健師4）

## リハビリテーション地域活動支援事業

活動計画立案、派遣人員調整、関係団体調整、専門的な技術支援等

協力病院からのリハ専門職等の派遣

県（健康福祉部：厚生政策課・長寿社会課）